

平成24年度 第3回 温海地域審議会

次 第

日 時 平成24年10月5日（金）
午後1時30分～
場 所 温海庁舎 6階大会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 協 議

（1）地域審議会協議テーマについて

（2）その他

4. 分 散 会

5. 閉 会

温海地域審議会委員

任期:平成24年7月1日～平成26年6月30日

所属団体名等	役職名等	氏 名	備 考
温海地域自治会長会	会 長	奥 井 厚	
温海町森林組合	代表理事組合長	佐 藤 重 夫	
庄内たがわ農業協同組合	理 事	本 間 澄 男	
山形県漁業協同組合	理 事	本 間 満	
出羽商工会温海支部	理 事	馬 場 充	
あつみ観光協会	会 長	柴 田 実	
あつみ福祉会	理 事	橋 本 忠 志	
温海地区民生児童委員協議会	会 長	五十嵐 孝 昭	
温海地区小中学校PTA会長 連絡会幹事校PTA会長	会 長	渡 辺 和 一	
温海体育協会	会 長	佐々木 眞 人	
鶴岡市老人クラブ連合会温海支部	支 部 長	五十嵐 幸 男	
温海地域婦人会	副 会 長	本 間 百 子	
温海芸術文化協会	事 務 局 長	榎 本 五 郎 治	
温海地域青年団体連絡協議会	代 表	伊 藤 貢	
鶴岡市消防団温海方面隊	方 面 隊 長	佐 藤 眞	
公募委員		佐 藤 眞 紀 子	
公募委員		佐 藤 容 介	
公募委員		五十嵐 淳 子	
公募委員		斎 藤 徹	
公募委員		本 間 加 知 子	

温海地域審議会鶴岡市関係者名簿

所 属		職 名	氏 名
温海庁舎		支 所 長	伊 藤 彦 市
温海庁舎	総務企画課	課 長	本 間 節 子
温海庁舎	総務企画課	主 幹 (併)社会教育課 主幹	石 塚 み さ
温海庁舎	市民福祉課	市民福祉課長	富 樫 達 男
温海庁舎	産 業 課	課 長	五 十 嵐 勇 一
温海庁舎	産 業 課	観光商工主幹	粕 谷 一 豊
総 務 部	温海税務事務室	室 長	丸 山 和 男
建 設 部	温海建設事務室	室 長	庄 司 又 兵 衛
温海庁舎	総務企画課	課長補佐 (兼)コミュニティ防災主査	三 浦 市 樹
温海庁舎	総務企画課	総務地域振興主査	五 十 嵐 浩 一
温海庁舎	総務企画課	総務地域振興主査	鶴 見 美 由 紀
温海庁舎	総務企画課	総務地域振興専門員	本 間 由 縁
企 画 部	地 域 振 興 課	地域振興専門員	三 浦 裕 美
企 画 部	地 域 振 興 課	主 任	前 田 哲 佳

地域審議会 協議テーマ (案)

温海地域審議会

協議テーマ	日沿道全線開通に向けた地域振興策について
テーマ設定の事由	<p>日沿道山形・新潟県境区間の整備については「都市計画決定に向けた協議着手」が発表され、日沿道の全線開通が現実味を帯びてきている。</p> <p>日沿道の全線開通が温海地域に何をもたらすのか、どのように変わっていくのか、全線開通までの期間を温海地域の生き残りをかけた「勝負の10年」として、何をすべきか、何が必要なのかについて協議を行う。</p>
協議テーマに関する現状と課題	<p>平成23年度末に日沿道鶴岡～温海間が開通したことにより、温海地域ではあつみ温泉の入客数が開通後3ヶ月間で対前年比170%、対前々年比141%の増加となっている。また、救急搬送時間の短縮や通勤・買い物などに要する時間についても短縮されており、各方面において日沿道開通の効果が現れている。</p> <p>一方、これまで幹線道路であった国道7号温海以北、国道345号沿線は交通量が減少し、沿線の商業施設などは影響を受けている。</p> <p>また、車の流れが変わったことで、一部集落では集落内の交通量が増大し生活環境が大きく変化しており、その対策を講じている。</p> <p>今後県境部分の整備により全線開通した場合の温海地域への影響を分析し、ストロー現象を防ぐための方策と、安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、防災対策、生活環境の整備が課題となる。</p>
特記事項	

温海地域審議会協議テーマ設定から提言までのイメージ

◎日沿道の全線開通

地域戦略会議
・現状分析・データ提供

○温海地域にどのような影響を与えるのか (あつみ温泉IC開通による変化を踏まえて)

・社会情勢、地域の現状を把握

【農林水産業】

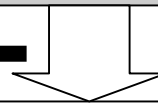
- ・販路の拡大
- ・後継者不足
- ・遊休農地の拡大

【観光業・商工業】

- ・交流人口の増加
- ・大都市への時間短縮
- ・ストロー現象の発生

【住民生活】

- ・生活圏・通勤圏の拡大
- ・集落内の交通量が増大
- ・人口の流出は



地域戦略会議
・事業計画(案)提示

○10年後に目指す温海地域のビジョン

【農林水産業】

- ・資源を活かした体験型農林水産業
- ・サラリーマン第1次産業化
- ・海と魚の活用、海産物のブランド化
- ・再生エネルギーの活用

【観光業・商工業】

- ・あつみ温泉の活性化
- ・交流人口の増加
- ・サービスエリアの誘致
- ・ネットワークの構築
- ・森林公園「協働の森」の活用

【住民生活】

- ・災害に強い安全なまち
- ・安心して子育てができるまち
- ・高齢者が安心して暮らせるまち
- ・地域内人口の増加

【 提 言 】 10年の間に温海地域がしなければならないこと。

日本海沿岸東北自動車道全線開通後の温海地域のビジョンについて

○ 鶴岡市総合計画【平成21年度】

目指す都市像 「人 暮らし 自然 みんないきいき 心やすらぐ文化をつむぐ悠久のまち 鶴岡」					
「市民・地域・行政の協調・協力による総合力の発揮により持続可能な希望あふれる鶴岡をつくる」					
ルネサンス宣言	創造文化都市	観光文化都市	学術文化都市	安心文化都市	森林文化都市
	本市にある様々な地場の資源を生かして、産業や文化を中心とする本市の可能性を伸ばしていくこと。	人と人とのつながりを大切にして集客・交流の拡大を図ること。	高等教育機関の集積を本市の戦略的資源として地域振興に生かし、新時代における市の品格を高めようとする事。	市民一人ひとりが健康で生き生きと安心して暮らせる環境を整えること。	恵まれた自然を生かし、自然と共に生きる地域づくりを推進すること。

○ 温海地域振興ビジョン【平成19年度】

個別プロジェクト	温海温泉の振興	海・水産業を活かした地域活性化	交流プログラムの開発
名 称	そぞろ歩きの楽しいあつみ温泉のまちづくり	輝く海と魚の活用による“旬鮮鼠ヶ関”づくり	温ったか“あつみ”四季の味わい体験
具体的な事業	○おもてなしの商店づくり	○鼠ヶ関産海産物のブランド化促進の検討	○山里集落の生活体験
	○温海温泉周辺観光スポット整備	○マスメディアの活用方法の検討	○見る・遊ぶ・くつろぎの自然体験
	○人材育成促進	○はなさき路の賑わいづくりの検討	○温海の歴史を楽しむ彩り体験
	○都市再生整備計画策定	○地域資源を活かした体験事業の検討	
		○食やイベントによる地域振興	
	○既存資源・施設の有効活用		

○ 温海地域審議会の提言【平成23年度】

提 言	地域グループのネットワーク化	日沿道延伸に伴う観光誘客事業	農林水産業の後継者づくり
具体的な事業	○あつみイベントバンク運営事業	○森林公園構想に係る調査事業	○サラリーマン第1次産業化プロジェクト
	・基礎調査の実施	○温海地域ドライブコース作成・PR事業	・農業体験事業
	・イベントコーディネーターの養成	○観光案内看板整備事業	・サラリーマン林太郎
	・情報提供システムの開発	○天魄山周辺環境整備事業	・サラリーマン鮮太郎
		○温和の森の再整備事業	○子供を対象とした自然体験教室

温海地域審議会

分散会の進め方について

- 1 分散会は、今回と次回（11月予定）の2回を予定しています。
- 2 分散会は2つとし、司会は第1分散会を奥井会長に、第2分散会を佐藤副会長にお願いします。 ※別紙名簿のとおり
- 3 分散会に支所長以下管理職は出席しません。 ※運営・記録担当を除きます。
- 4 事務局（市職員）は、運営・記録担当とし、基本的に出された意見に対して回答はしません。
- 5 分散会の会議録は作成せず、まとめのみを作成します。
- 6 発言は出身団体にこだわらず、委員自身が日常生活の中で感じたこと、考えていることを発言してください。
- 7 「現状」「課題」「目標」「解決策」など堅苦しい感じがしますが、ざっくばらんに自身の考えで発言してください。
- 8 話し合いの目安
 - (1) 第1回分散会（現状・問題点等の洗い出し）

今年の3月の日沿道鶴岡～温海間の開通に伴い、温海地域にどのような変化をもたらしたのか。今後どのような影響が予想されるのか。効果、問題点は。
[農業・林業・漁業] [観光業・商工業] [住民生活] [その他]
 - (2) 第2回分散会（将来ビジョン）

全線開通が予定される10年後に温海地域はどうあればよいか。どうあるべきか。理想の姿。
[農業・林業・漁業] [観光業・商工業] [住民生活] [その他]
- 9 分散会の意見整理

分散会で出された「現状・問題点」と「将来ビジョン」のギャップを埋める為の課題、解決策を全体会で議論し提言として取りまとめていきます。

温海地域審議会 分散会名簿 【 変 更 】

第 1 分 散 会

所属団体名等	役職名等	氏 名
温海地域自治会長会	会 長	司 会 奥 井 厚
庄内たがわ農業協同組合	理 事	本 間 澄 男
出羽商工会温海支部	理 事	馬 場 充
あつみ福祉会	理 事	橋 本 忠 志
温海地区小中学校PTA会長 連絡会幹事校PTA会長	会 長	渡 辺 和 一
鶴岡市老人クラブ連合会 温海支部	支 部 長	五 十 嵐 幸 男
公募委員	湯けむり女子会	本 間 加 知 子
公募委員	あつみスポーツ クラブネクス	斎 藤 徹
事務局	総務企画課長	本 間 節 子
事務局	総務地域振興主査	鶴 見 美 由 紀
事務局	地 域 振 興 課 地 域 振 興 専 門 員	三 浦 裕 美

第 2 分 散 会

所属団体名等	役職名等	氏 名
温海町森林組合	代表理事組合長	司 会 佐 藤 重 夫
山形県漁業協同組合	理 事	本 間 満
あつみ観光協会	会 長	柴 田 実
温海地区民生児童委員協議会	会 長	五 十 嵐 孝 昭
温海芸術文化協会	事 務 局 長	榎 本 五 郎 治
温海体育協会	会 長	佐々木 眞 人
温海地域婦人会	副 会 長	本 間 百 子
公募委員	蓬 萊 塾	佐 藤 眞 紀 子
事務局	総務地域振興主査	五 十 嵐 浩 一
事務局	総 務 地 域 振 興 専 門 員	本 間 由 縁
事務局	地 域 振 興 課 地 域 振 興 専 門 員	前 田 哲 佳

- 1 日東道鶴岡～温海間開通に伴う交通量等の変化について・・・p 1～p 4
- 2 日東道鶴岡～温海間開通に伴う観光動態について・・・・・・・・p 5～p 10
- 【参考：新聞報道】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p 11～15

①日東道、県境部未接続で機能発揮できず 高波で断絶の国道7号迂回路なく
(24.4.10 山新)

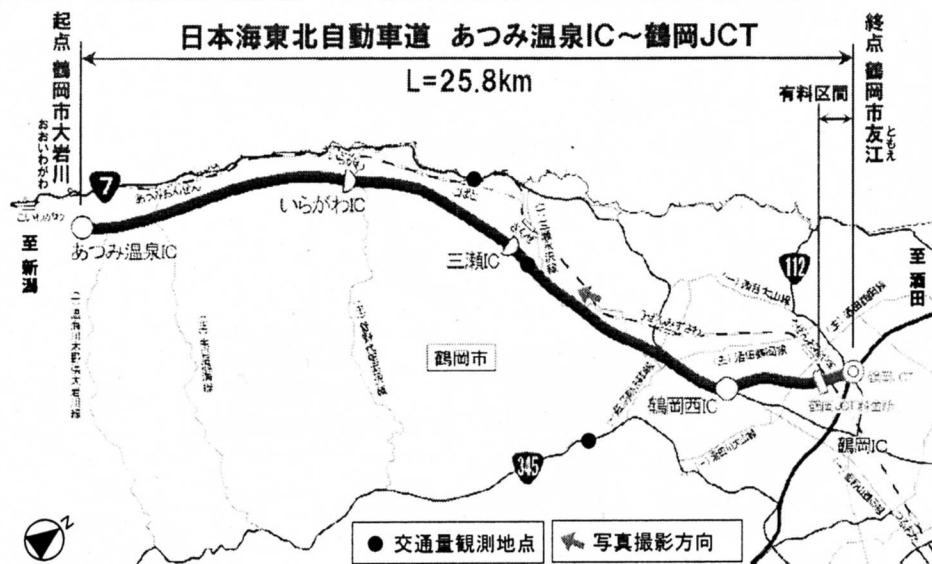
②開通から1ヶ月、通行量変化で明暗 日東道・あつみ温泉～鶴岡
(24.4.24 山新)

③鶴岡・浜中、抜け道として通行の車急増 日東道・あつみ温泉ICと国道7号間
(24.9.25 山新)

【開通1ヶ月後】日本海東北自動車道 あつみ温泉IC～鶴岡JCTが 開通して

(平成24年 3月24日開通)

- ① 並行する国道7号や国道345号の交通量が減少
- ② 沿線地域や道路利用者も効果を実感



～沿線地域や道路利用者も効果を実感～

■物流の効率化

- ・原材料の搬入時間短縮や搬入時刻の精度向上につながりました。
- ・国道7号の交通量が減少して、安全に輸送できるようになりました。
(沿線地域の物流事業者ヒアリング結果より)

■観光の活性化

- ・庄内(特に酒田)のお客様が多く来られ、昼食や立寄り入浴の利用が目立っていると感じます。(あつみ観光協会ヒアリング結果より)

■生活利便性・安心感の向上

- ・酒田、鶴岡方面に通勤する人たちにとって、本当に便利な道路です。
- ・庄内方面への救急搬送時間が確実に短縮される上、由良坂を通る必要がなくなり、安心感が増しました。(町内会ヒアリング結果より)

■並行する国道7号や国道345号の交通量が減少

開通前

国道7号 : 8,800台/日
国道345号 : 3,200台/日
高 速 : 一 台/日



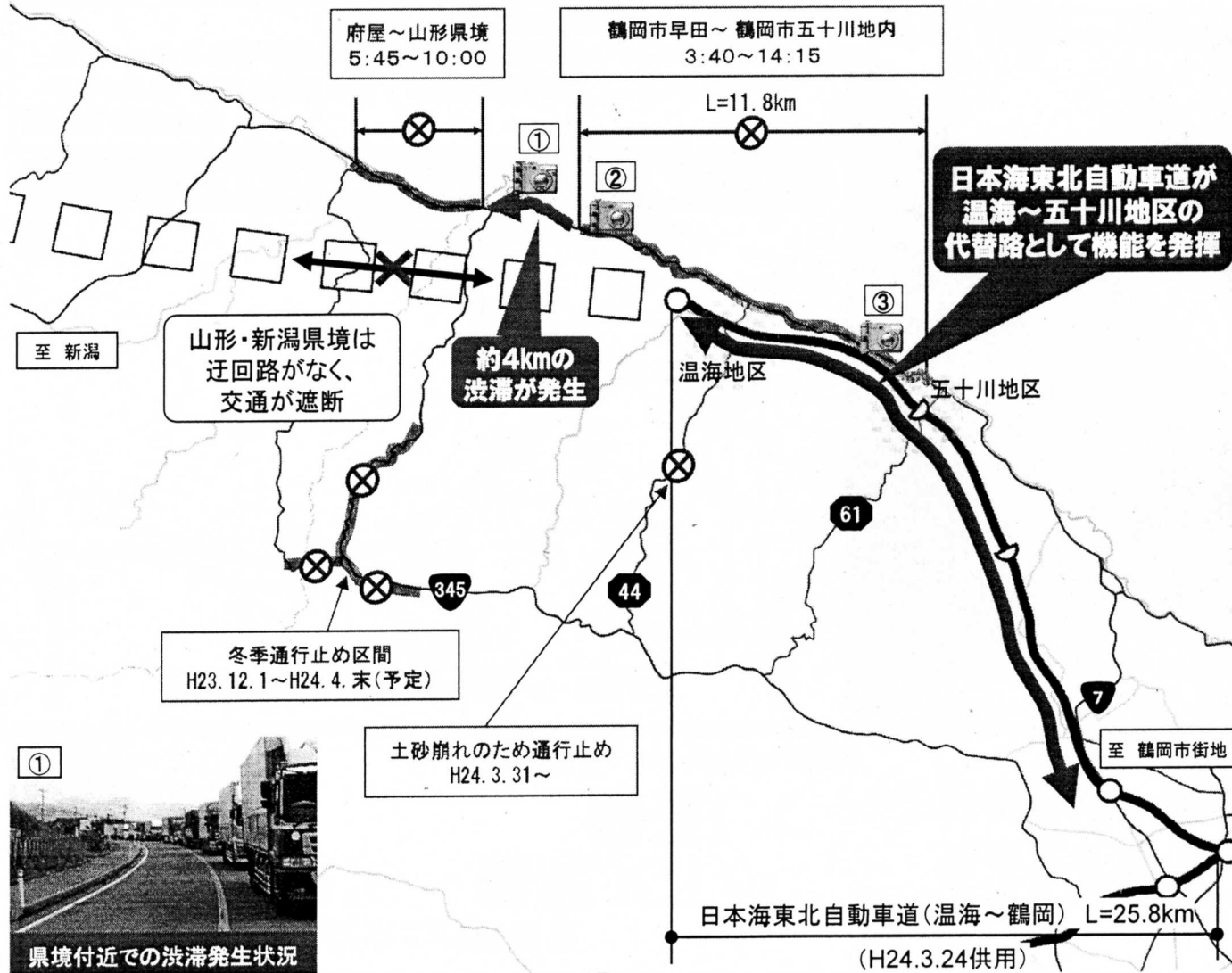
開通1ヶ月後

国道7号 : 5,100台/日
国道345号 : 3,000台/日
高 速 : 5,900台/日

事業期間 : 平成9年度～平成23年度
延 長 : 25.8km
幅 員 : 12.0m (暫定2車)

国道7号の迂回路が無い、山形～新潟の沿岸交通が遮断

- ・国道7号の一部区間が、越波により約10時間半にわたり全面通行止め〔平成24年4月4日(水)〕
- ・温海地区以北では、日本海東北自動車道が代替路として機能を発揮
- ・山形～新潟県境部は、迂回路がなく交通が遮断



■商品の確実な輸送を支援

- ・4月4日は、通常より搬入が遅れましたが、日本海東北自動車道経由で無事に商品が届きました。(沿線地域の物流事業者ヒアリング結果より)

■災害時の安心感向上

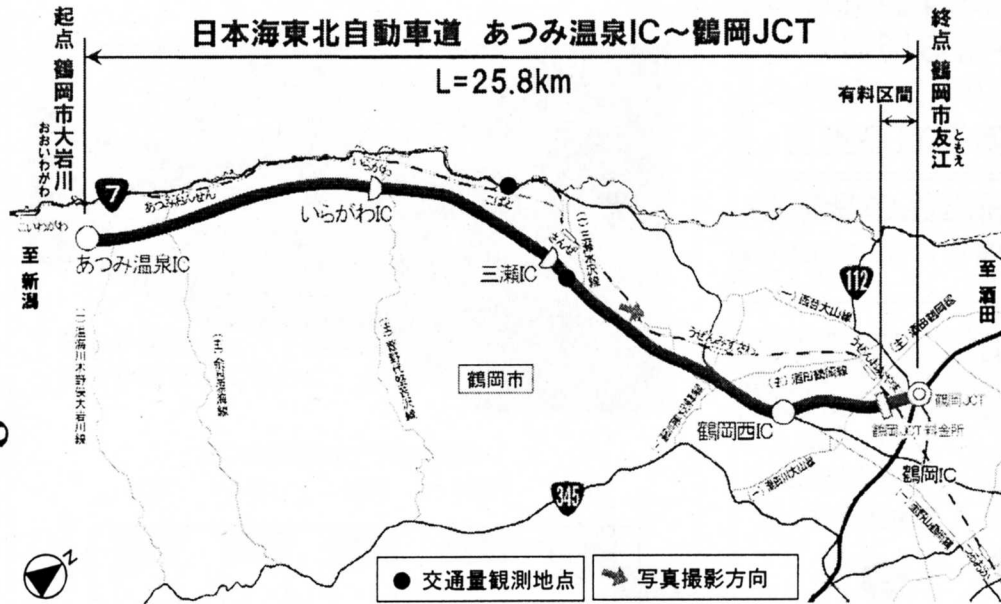
- ・災害等によって集落が孤立する心配がなくなりました。(町内会代表者ヒアリング結果より)



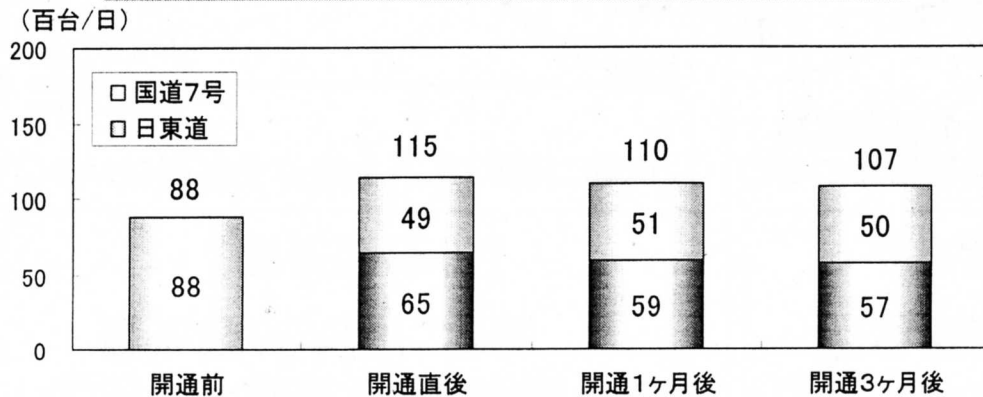
【開通3ヶ月後】日本海東北自動車道 あつみ温泉IC～鶴岡JCTが 開通して

(平成24年 3月24日開通)

- ①日本海東北自動車道の利用が定着
- ②あつみ温泉でGW期間中の観光客が増加
- ③あつみ地区からの救急搬送時間が短縮
- ④物流ルートの変更による輸送頻度の増加



①日本海東北自動車道の利用が定着



日本海東北自動車道、国道7号における交通量の推移



■並行する国道7号の交通量が減少

開通前
国道7号 : 8,800台/日
高 速 : ー 台/日

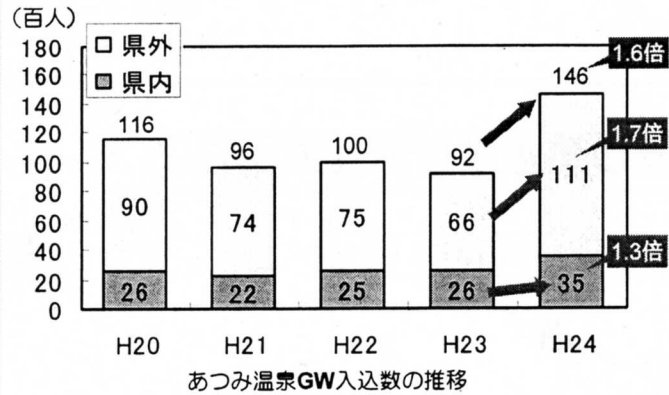
開通3ヶ月後
国道7号 : 5,000台/日
高 速 : 5,700台/日

事業期間 : 平成9年度～平成23年度
延 長 : 25.8km
幅 員 : 12.0m (暫定2車)

②あつみ温泉でGW期間中の観光客が大幅に増加

【観光活性化】

○GWの観光客が前年比で1.6倍に増加



あつみ温泉街において、平成24年4月29日に開催された花見イベントの状況



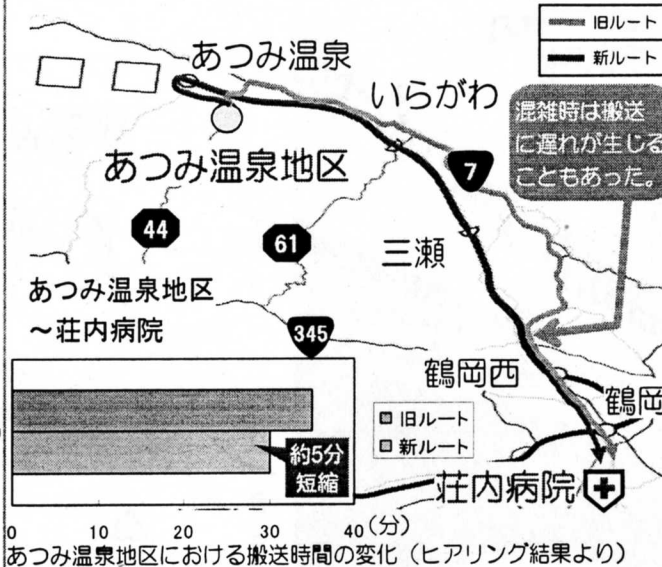
○誘客圏域の拡大等の効果も実感

- ・4月には、例年より多くの団体バスツアー客が訪れました。
- ・酒田方面から訪れる日帰り客も増加し、飲食店の利用者数が増えました。(あつみ観光協会ヒアリング結果より)

③あつみ地区からの救急搬送時間が短縮

【救急搬送の改善】

○あつみ温泉地区～荘内病院までの救急搬送ルート変更例



○患者の安定搬送にも貢献

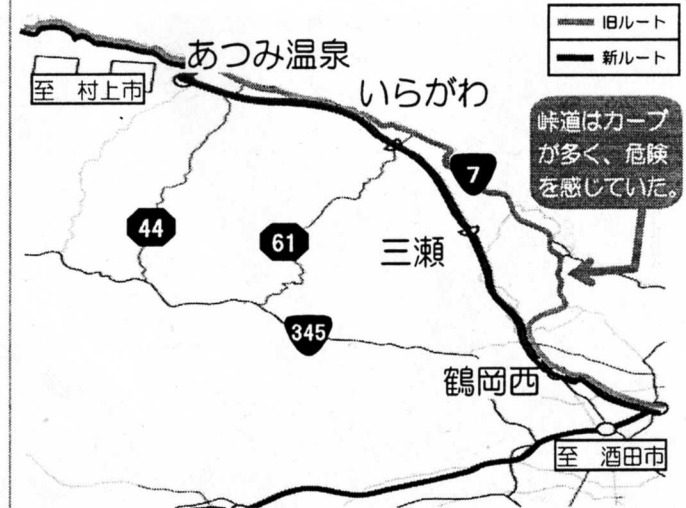
- ・日東道は路面の状態が良く、急カーブも無いことから、振動による傷病者の身体的負担が軽減され、搬送中の救急処置も施しやすくなりました。(温海分署ヒアリング結果より)

- ・日曜、祭日のなど、地元の医院が休診のとき、早く(鶴岡の)病院に行けるので有り難い。(地元の声より)

④物流ルートの変更による輸送頻度の増加

【物流効率化】

○A社における山形県酒田市～新潟県村上市の物資輸送ルート変更例



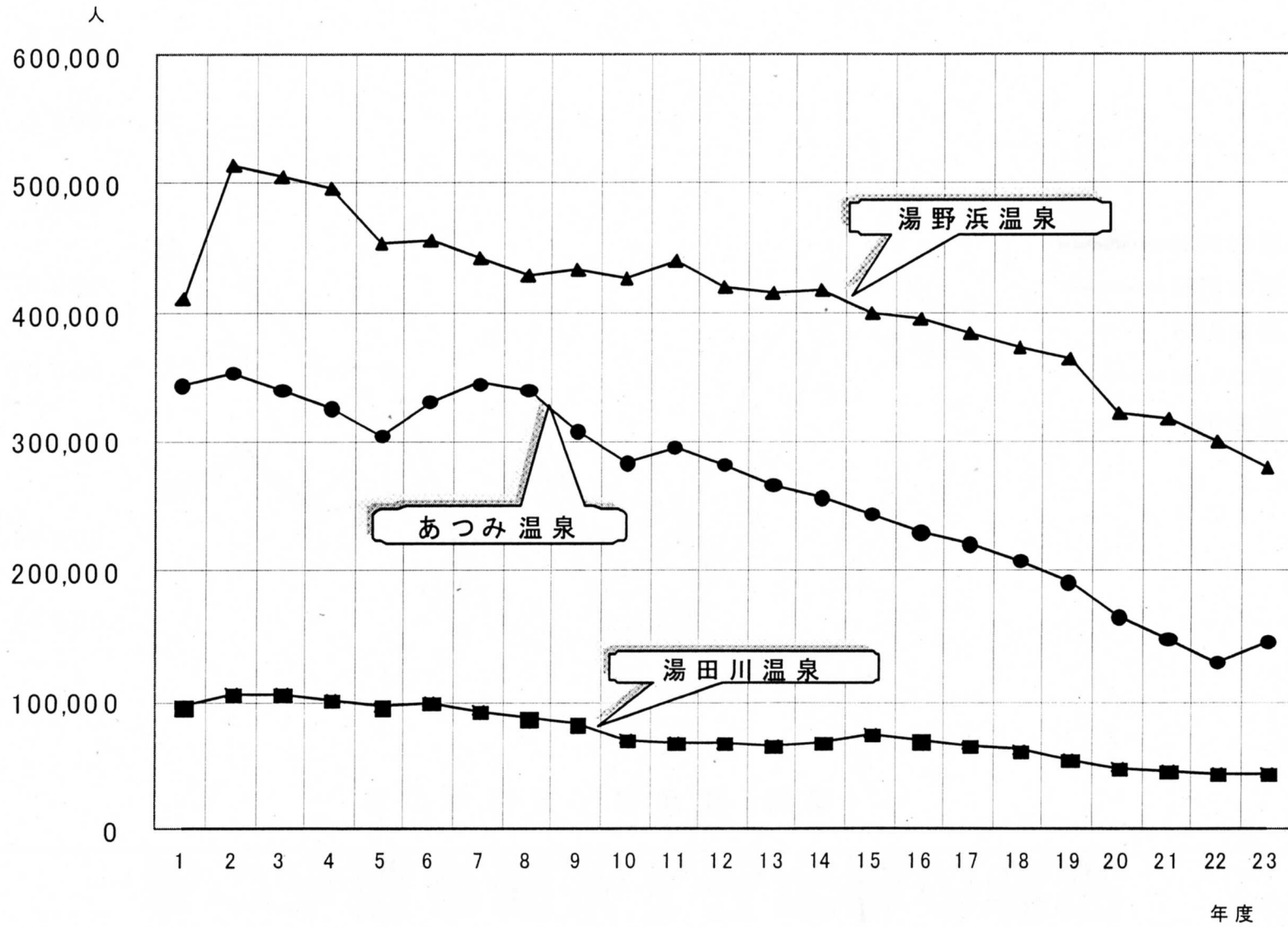
○輸送頻度の増加

- ・山形県酒田市～新潟県村上市の物資輸送頻度が、一日あたり2回から4回に増加しました。(A社ヒアリング結果より)

○通勤時間が短縮

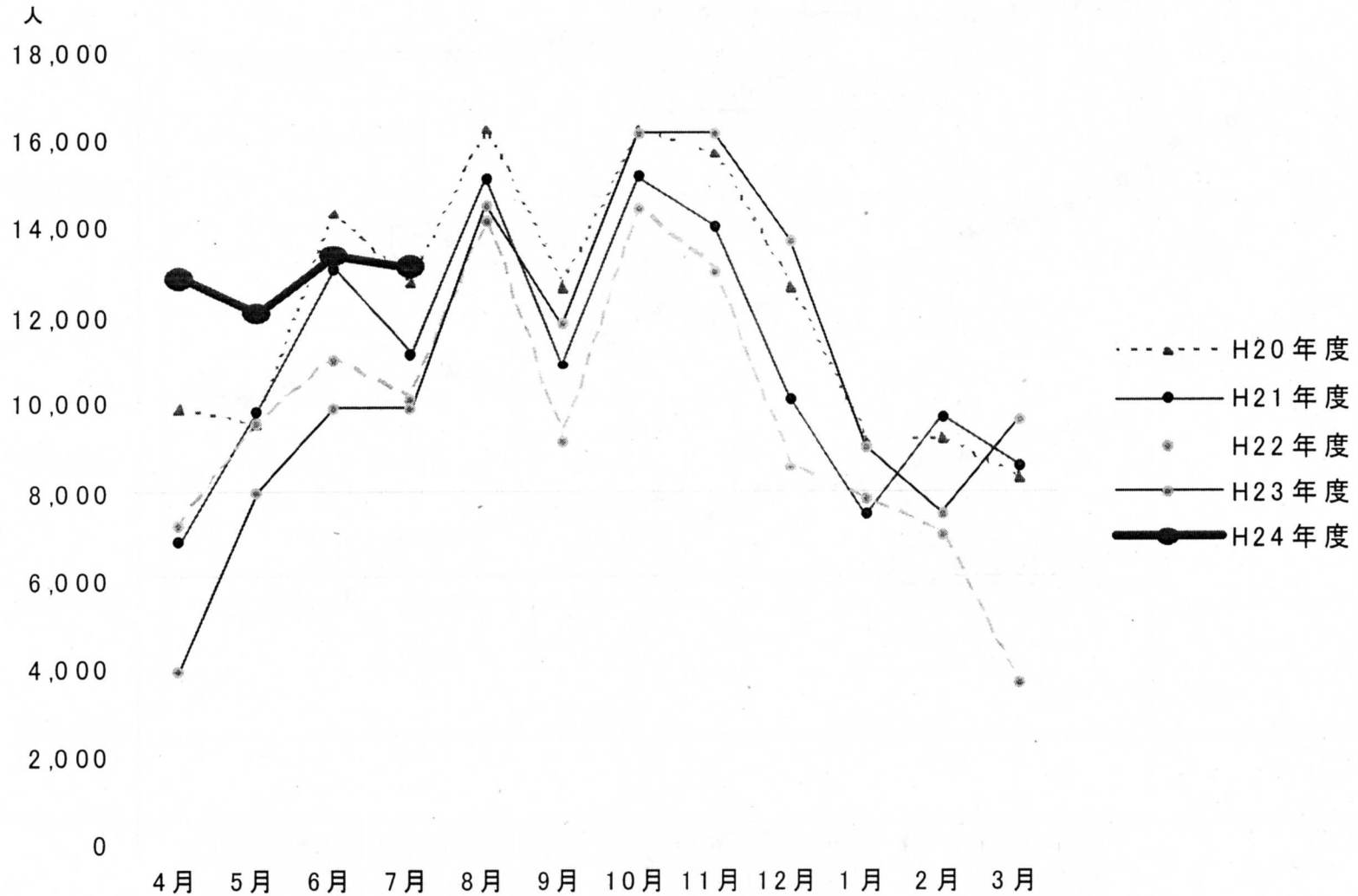
- ・あつみ方面から通勤していますが、5～10分通勤時間が短縮され、朝の忙しい時間帯の短縮は有り難い。(通勤者の声より)

鶴岡市三温泉入客数の推移



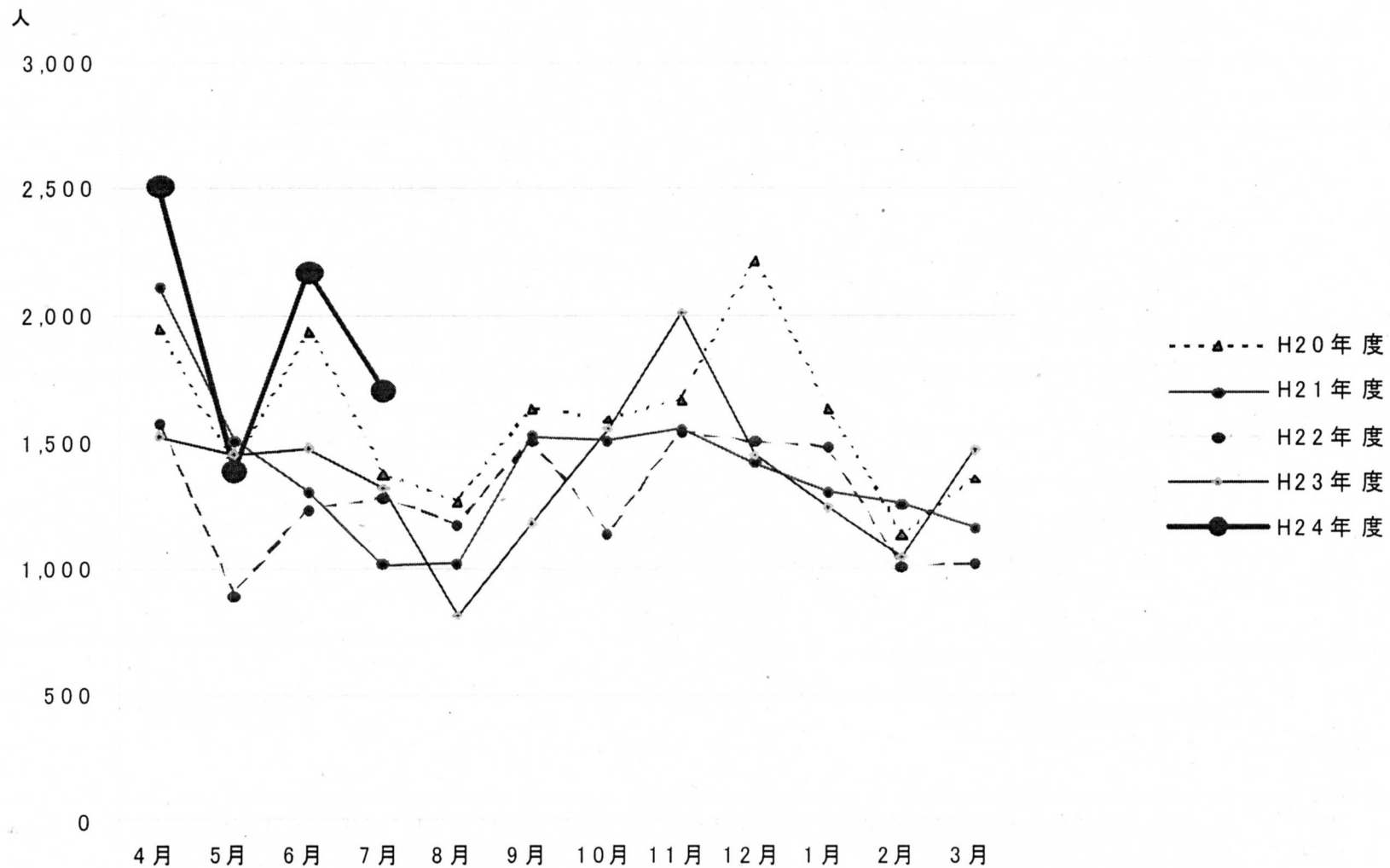
あつみ温泉観光入込客数の状況

あつみ温泉入湯客数(宿泊)



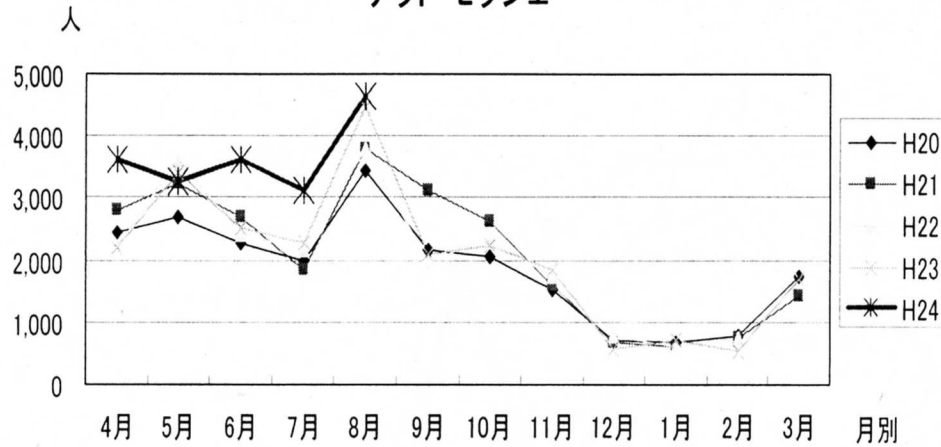
あつみ温泉観光入込客数の状況

あつみ温泉入湯客数(日帰り)

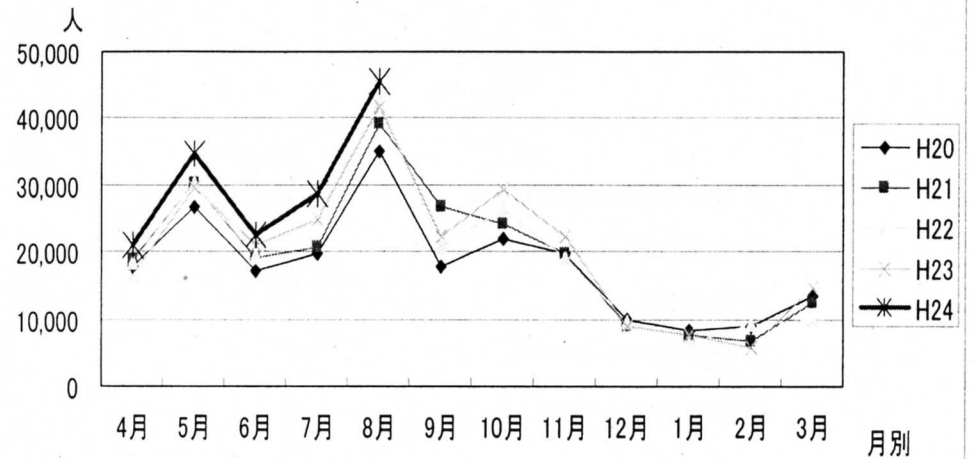


温海地域各スポット観光入込客数の状況

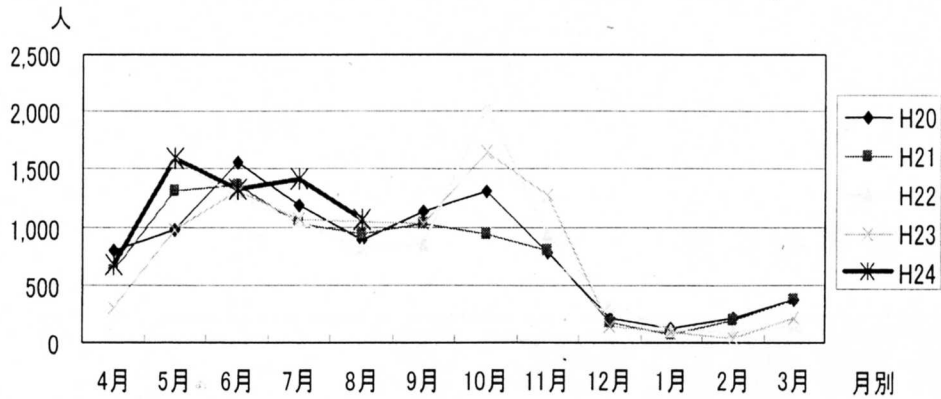
チット モツシエ



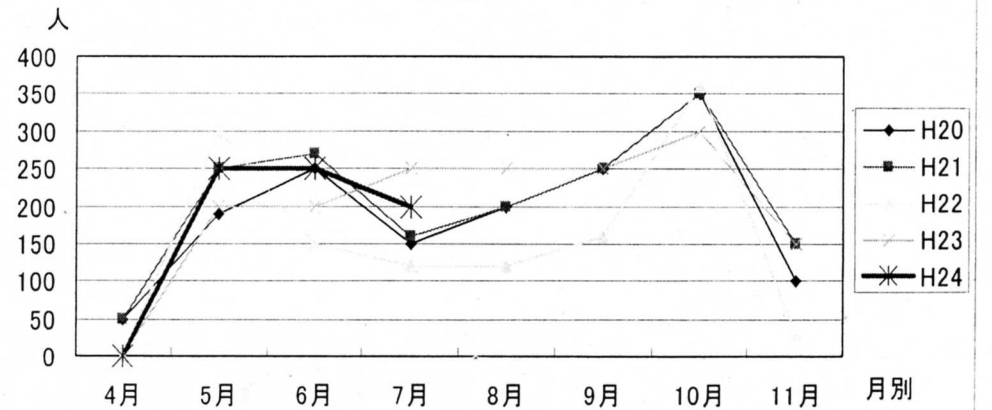
道の駅「あつみ」しやりん



念珠関及び念珠の松庭園入込客数の推移

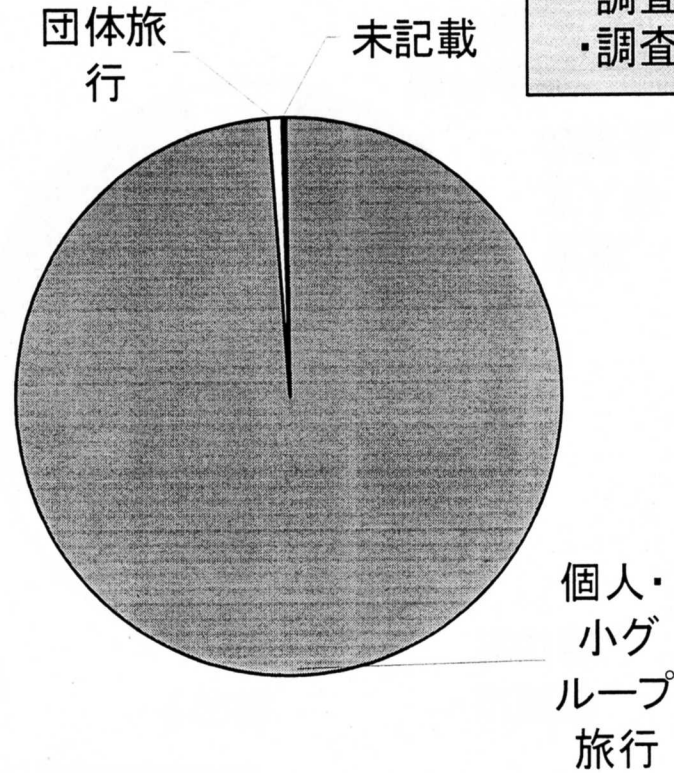


摩耶山



あつみ温泉来訪者の実態

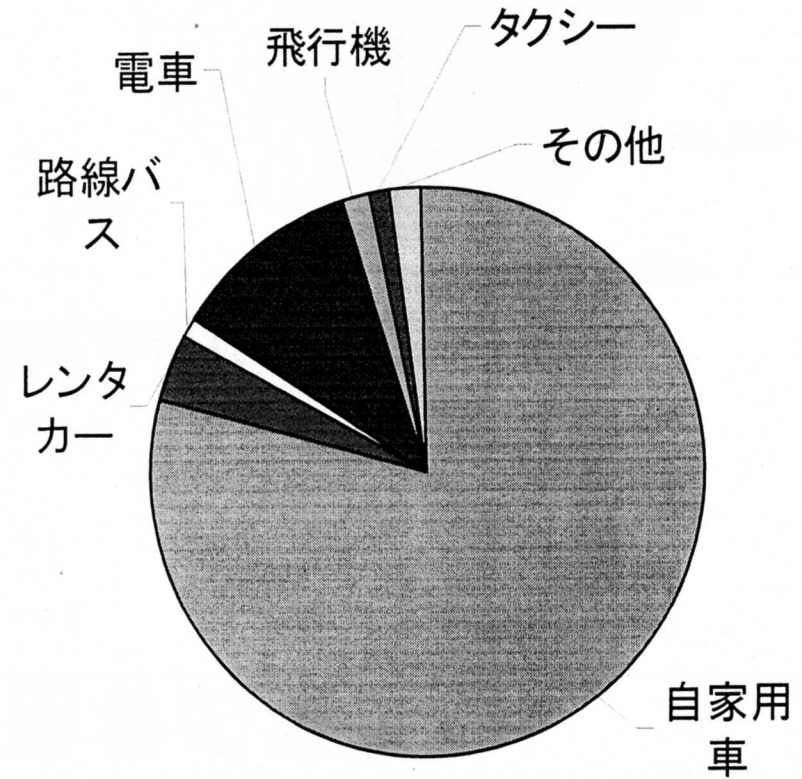
旅行形態(全体)



【あつみ温泉実態調査より】

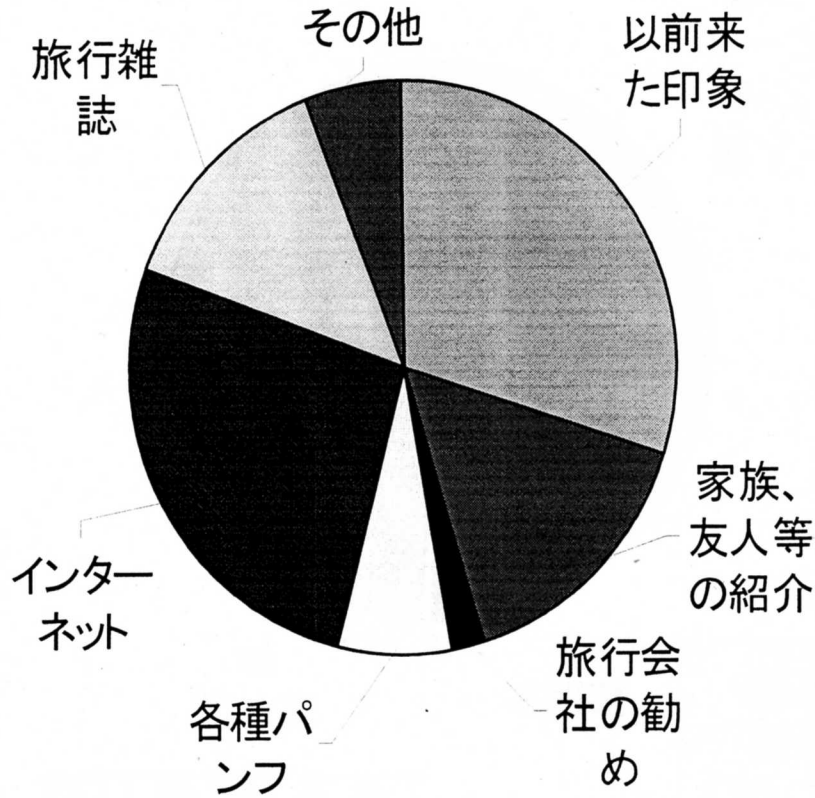
- ・調査実施日:平成22年9月17日(金)~24日(金)
- ・調査方法:旅館宿泊客へのアンケート調査

来訪手段(全体)

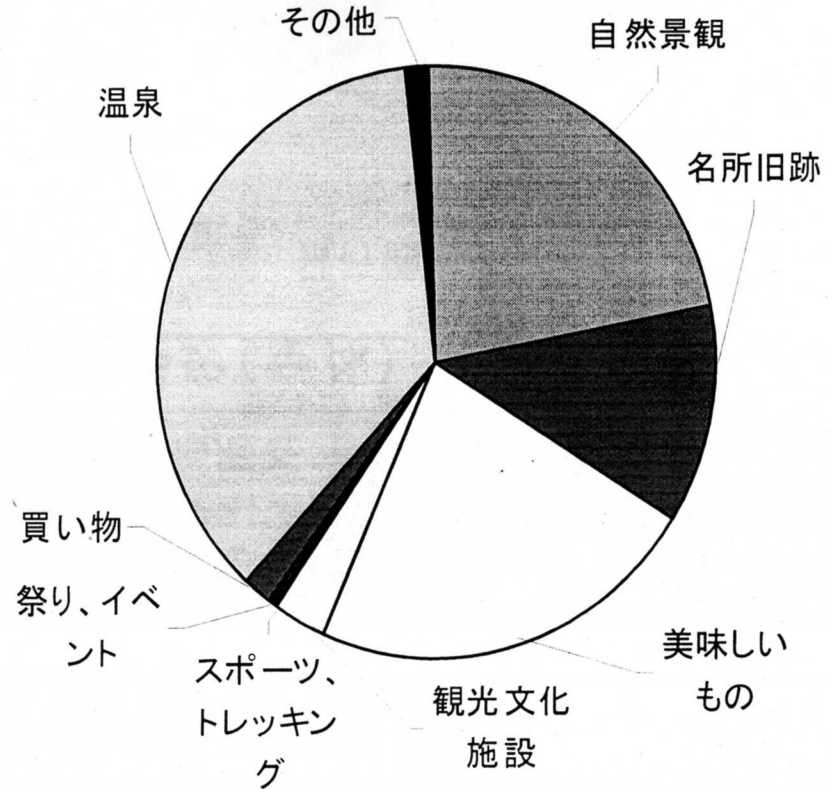


あつみ温泉来訪者の実態

情報媒体(全体)



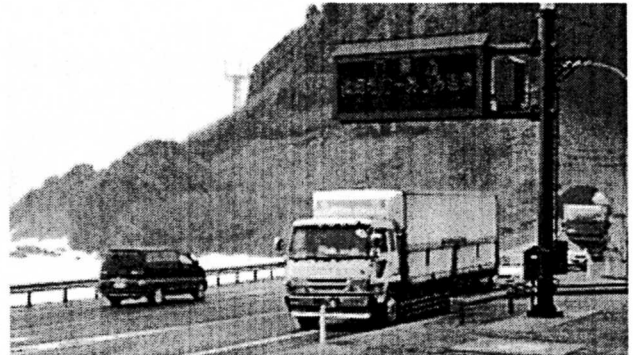
観光の内容(全体)



日東道、県境部未接続で機能発揮できず 高波で断絶の国道7号、迂回路なく

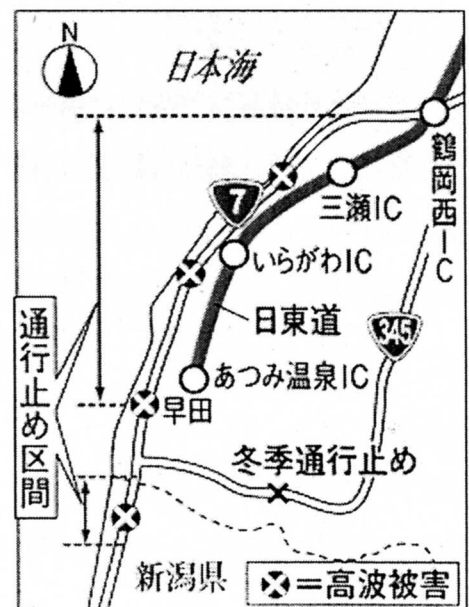
2012年04月10日【山形新聞】

日本海で急速に発達した「爆弾低気圧」の影響で、庄内沿岸部を走る国道7号は新潟県境付近から鶴岡市五十川までの数カ所で高波被害を受け、4日未明から10時間以上にわたり通行止めとなった。県境部は迂回(うかい)路もなく、陸路は全て断絶。その“余波”で、先月開通した日本海東北自動車道(日東道)も一部で交通規制が実施され、災害時のダブルネットワーク機能を十分に発揮できなかった。ミッシングリンク(未接続区間)となっている県境部の早期整備の必要性があらためて浮き彫りになった格好だ。



高波のため国道7号の鶴岡市早田—五十川区間が全面通行止めとなり、規制解除を待つ大型トラックが列をつつた=4日午前10時50分、鶴岡市五十川

国土交通省酒田河川国道事務所によると、国道7号は鶴岡市の小岩川や暮坪、小波渡など数カ所が高波で冠水。波で押し寄せられた流木や土砂が道路を覆い、4日午前3時40分から午後2時15分までの間、同市早田—五十川間が全面通行止めに。新潟県側も村上市府屋—県境間が同午前5時45分から同10時まで通行止めになった。鶴岡市街地から五十川、あつみ温泉に向かう車と、五十川やあつみ温泉から市街地に向かう車については日東道が国道7号の迂回路の役割を果たし、災害時の補完機能を発揮。だが、県境を越えて新潟へ向かう車は、あつみ温泉IC付近で滞留するのを防ぐため、日東道の鶴岡西IC入り口で通行を制限した。国道7号は五十川から新潟県境部の区間は海岸線近くを走るため、強風時は高波による交通規制が何度となく実施されてきた。迂回路となる国道345号についても県境付近の山間部は冬季通行止め区間があり、自然災害で国道7号がストップした場合、県境部の陸路が完全に断絶する。このため4日も規制解除待ちのトラックなどの車両が「道の駅あつみ」から新潟側に約4キロ連なっていた。国交省は6日、日東道の県境部・朝日まほろば(村上市)—あつみ温泉間(39キロ)について、計画段階評価の次のステップに当たる都市計画決定に向けた調査に着手すると発表した。最短で2014年度に事業着手し、着手から10年以内の完成となるが、今回の高波被害を受け、災害時のダブルネットワークを確保するため、未接続区間の一日も早い整備が課題として浮上した。



開通から1カ月、通行量変化で明暗 日東道・あつみ温泉—鶴岡

2012年04月24日 「山形新聞」

日本海東北自動車道(日東道)のあつみ温泉インターチェンジ(IC)―鶴岡ジャンクション(JCT)間(25.8キロ)が開通し、24日で1カ月。庄内の交通網整備は大きく進展したが、ハーフJCTと2カ所のハーフICがある構造から、交通の不便さが指摘されている。開通に伴う経済効果についての地元の反応はさまざま。売り上げがアップし、歓迎する声がある半面、客足減に肩を落とす人もいる。



あつみ温泉街にある足湯カフェでは、日東道開通後に家族連れの姿が増えたという＝鶴岡市

日東道のあつみ温泉IC―鶴岡JCT間の開通で、あつみ温泉街や近くの店舗には観光客が例年以上に訪れ、にぎわいを見せている。一方、日東道とほぼ並行する国道7号沿線では期待や不安、戸惑いの声が交差する。

「温泉街の共同浴場や足湯を日帰りで利用する人が増え、若者の姿が目立つようになった」と話すのは、あつみ観光協会の柴田実会長。ゴールデンウィーク(GW)を控え、旅館などの予約数も順調に増えているという。温泉街にある足湯カフェ「チットモツシェ」の榎本幸作チーフは「家族連れが多く来店してくれるようになった」と笑顔を見せる。

温泉街近くで人気のラーメン店「めん処(どころ)久太」では客数が倍増。野尻久店主は「常連客が今まで以上に来店してくれるし、酒田市や遊佐町など遠方からも食べに来てくれる」と話す。

「今がチャンス。リピーターを増やせるように頑張る」

一方、交通量が減った国道7号。沿線の施設や店舗の関係者は複雑な思いを抱える。鶴岡IC近くの庄内観光物産館。渡辺重昭営業部長は「今のところ来店者数が減るなどの目立った影響はない」としながらも、温海―酒田間を行き来する場合に素通りされる可能性を指摘。「不安はあるが、変わらずに立ち寄ってくれる観光客もいる。GWや夏の行楽シーズンに向けてPRしたい」と話す。

あつみ温泉―鶴岡西間の国道7号沿いにあるコンビニエンスストアの男性店長は「車の通行量は半分ほどに減少した。商売をする側としては苦しい」と心情を吐露する。長距離トラック運転手

や観光客の利用が減り「他店舗からも『これからどうしようか』と声が出ている」。だが、店舗は地域住民にとって不可欠であるとの自負がある。「厳しい状況だが、生き残っていきたい。少しでも多くの人から地元にも目を向けてもらいたい」

不便なハーフIC2カ所

今回の開通区間に設置されたIC4カ所のうち、いらがわICと三瀬ICはともに鶴岡方面に向かう車だけが合流できるハーフIC。逆にこのICで降りることができるのは、温海方面に向かう上り車線のみ。温海―山形間を行き来する場合は、鶴岡ICか鶴岡西ICで一度国道7号に降り、再度高速道路に乗る必要がある鶴岡JCTの構造と合わせ、開通直後から利便性の悪さを指摘する声が上が

ハーフインターチェンジとして整備された日本海東北自動車道のいらがわIC＝鶴岡市五十川



る。フル規格ではなくハーフICを選択した理由について、県と酒田河川国道事務所は「地形条件からフルIC建設には十分な用地を確保できなかった」と説明する。いらがわ、三瀬両ICはいずれも急峻(きゅうしゅん)な山間部に位置。いらがわICは南に温海トンネルと五十川橋、北に堅苔沢トンネルが連なる。三瀬ICは南北を西川橋と三瀬川橋に挟まれており、フル規格のIC整備は物理的に不可能だったという。

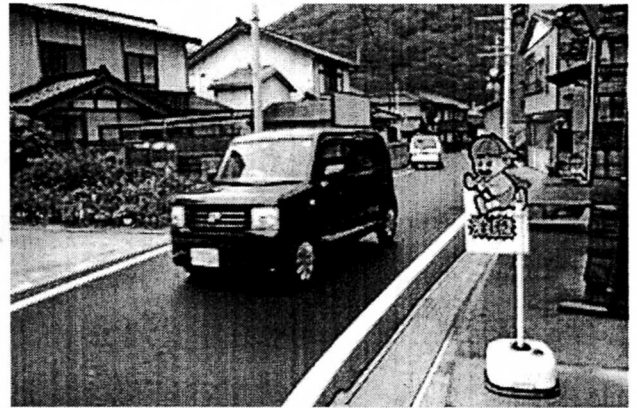
県内高速道路のハーフICはこのほか、東北中央自動車道の村山北IC(仮称)の2カ所など整備中の区間を含め7カ所あり、合わせて9カ所(地図)。フル規格ではなくハーフICを選択する要因として、県と山形、酒田両河川国道事務所はフル規格建設には面積が足りないという地形条件に加え、予測交通量を踏まえた費用対効果を挙げる。ハーフICの事業費は一般的に、フル規格の半分程度だという。

いらがわ、三瀬両ICをいずれも鶴岡方面に向かう車だけが合流できる構造にした理由について、酒田河川国道事務所は「新潟よりも鶴岡への結び付きが強い地元住民が多い。そうした要望が(ICの設置を申請した)県と鶴岡市の計画に反映された」。今後のフル規格への整備については「地形条件の問題から検討していない」としている。

鶴岡・浜中、抜け道として通行の車急増 日東道・あつみ温泉ICと国道7号間

2012年09月25日【山形新聞】

日本海東北自動車道(日東道)のあつみ温泉インターチェンジ(IC)－鶴岡ジャンクション(JCT)間が開通して24日で半年が経過した。周辺は大きく交通事情が変化しており、同ICと国道7号の間に位置する鶴岡市大岩川の浜中集落では、集落内の狭い市道を抜け道として通行する車両が急増。交通事故発生のおそれがある可能性もあり、地元では「ドライバーのモラルに訴えるしかない」と対応に苦慮している。



あつみ温泉ICと国道7号の間に位置する浜中集落では交通量が増加している＝鶴岡市

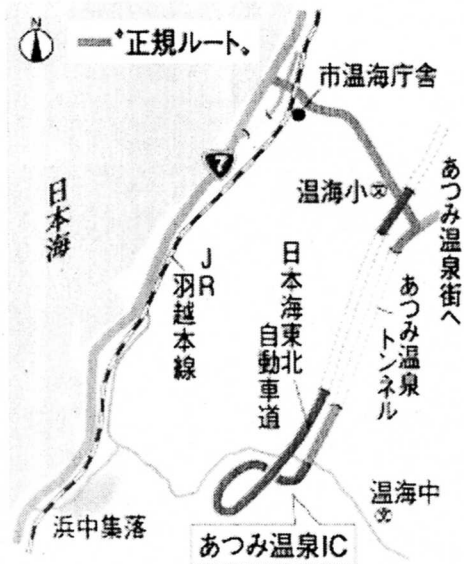
同IC－国道7号間の“正規ルート”と位置付けられているアクセス道は、あつみ温泉トンネルや市温海庁舎前を通る県道が整備されており、道路標識などで案内している。同ICの出入り口付近と国道7号側の浜中集落入り口には、集落内の一般車両の通行を控えるよう促す看板を設置しているが、実際は通り抜ける車が後を絶たないという。

その理由は走行距離の差だ。同ICから、浜中集落と国道7号の合流点までを、“正規ルート”を使って走った場合は約5キロ。一方、浜中集落を通れば2キロ足らずで、時間短縮にもつながる。

市は6月、午前7時～午後7時の浜中集落周辺の交通量を調査。その結果、平日は1681台、休日は1980台が集落内を通過した。開通前は1209台(2010年10月、平日)で約500台増となった。

市温海庁舎の担当者は「通過する車両が増えると想像はしていたが、予想以上だ」と話す。新潟や秋田など県外ナンバーの車両も目立ち、カーナビで浜中集落を通るルートが表示される可

能性もあるという。通行車両の増加を見越し、集落内の市道を拡幅するなどしたが「生活道路として整備したのであり、アクセス道として使うためではない」という。



地元住民も頭を悩ませている。地元自治会長の佐藤勝利さん(64)は「日常的に朝晩の通勤時間帯は交通量が多い。5月の連休には渋滞ができるほどだった」と指摘。「車2台がすれ違うのがやっとの道を、時速50~60キロで走る車もある」と、重大事故の発生を危惧(きぐ)し、「(アクセス道として)集落内の通り抜けはしないでほしい」と話す。夜間から早朝にかけては県外ナンバーの大型トラックが通ることもあるという。「現状ではドライバーのモラルに期待するしかない。早く日東道の県境部分を開通させてほしい。そうすれば、集落内の交通状況は大きく改善するはず」と期待を口にした。